

県教委と学習塾の情報交換会 2021年7月13日 教育委員会にて

ご回答いただいた方

神奈川県教育委員会 教育局

岡野 親 教育監

岡野 正之 指導部高校教育課 専任主幹兼指導主事

増田 年克 参事兼指導部高校教育課長兼県立高校改革担当部長

10回を数える県教委の方と学習塾の情報交換会。本来であればたくさんの県内の学習塾の先生方にお集まりいただき、活発に県教委の方とやりとりをしていただきたかったのですが、コロナ禍の中でそれはかないませんでした。去年に引き続き、塾の先生方からいただいた質問、意見を携えて訪問し、県教委の方にお応えいただく形式になりました。お忙しい公務の中で時間を割いていただいた県教委の皆さまには心より感謝いたします。塾側もさまざまに情報発信されている県教委からの情報をしっかりと受けとめて勉強していきたいと思えます。

かながわ民間教育協会 第2部会 掛川忠良・宮崎智樹

\*は、塾からのご質問です、個別塾名は公開いたしておりません。なお、協会としての質問ではなく、質問された方に直接お話を伺わないと理解が難しい質問もありましたが、そのままお尋ねしました。

補足・・・（掛川）の部分は、これまで県教委との勉強会を準備してきた者としての個人的な意見です。

高校入試について(制度)

\* 普通科高校の改革については文科省でも検討されているが、神奈川県としてはどのような姿勢でいるのか。県の指定事業にもかかわらず、重点校以外の普通科高校については、募集が上手くいっていない高校が数多くある。各高校の自助努力ではなく、県としてどう支援していくのか。

平成28年度から3期12年で取り組んでいる「県立高校改革実施計画」(現在は「Ⅱ期(令和2～5年度)」)の中で検討しているところ。これまでの「Ⅰ期」、「Ⅱ期」の発表のタイミングに倣えば「Ⅲ期」(令和6～9年度)の発表はおそらく来年の夏から秋にかけてとなるだろう。定員割れの学校については募集定員を減らすなどしている。今春の入試では新規に定員割れの学校は少なくなっている。一定の歯止めはかかっている。

\* 学力向上進学重点校は増やしていくのか

教育長が10校程度と議会で答弁している。とはいっても数を決めて計画的に増やすということではない。あくまでもそれぞれの学校の努力したい。

\* 内申の不公平感はそのまましておくのか

教育委員会としては「内申の不公平がある」という認識はない。H15年あたりの絶対評価の嵐が吹き荒れたときに県教委としても評価の公平性について手を入れて整理をしたと考えている。

\* 面接点を一律で同じにしている高校についてどう思うか。面接で逆転が起こることは好ましくないのか

受験生がしっかりと観点にしたがって面接の準備をしている結果として差が付かないことはあり得ることと捉えている。いろいろな意見があると思うが、ある一定の成果は出ている。面接で逆転が起こることが好ましくないとも思っていない。

\* 面接もやらなければならない、というが、実際に上位校で面接点の差をつけていないところが多いのも関わらず、受験生はこのコロナ禍でも1日無駄に危険を冒してまで入試会場に足を運ばなければならなかった。いい加減、教育委員会も目を覚まして実質意味の無いことが行われているのなら、是正すべきところは是正すべきではないか。一度制度を決めたからといってどんなに意味の無いことが分かっても変えないのはどうなのか？

\* 面接試験の得点差がない高校でリスクの高い面接試験をやる必要性は？面接試験の有無を高校側が選択できるようにできないのか。

もうそろそろ改善の時期じゃないかという意見があることは理解している。中学校の校長先生に伺うと、質問の趣旨のような意見を言う方もいらっしゃる一方で、面接検査に向けた模擬面接などの指導を通して、生徒自身がなぜ高校に進学するのかをあらためて整理して自覚する、キャリア教育のよい機会の一つとなっているので面接検査は続けたほうが良いという意見もある。ひとつの考え方でしかないが、面接をオプションにすることも今後はあるかもしれない。

補足 是正に関しては、上記回答とおり、ただ、現在の制度に至る過程でどのような議論が行われたのか、なぜ全ての高校で面接が導入されたのかという背景も知っておくことは塾としても必要だと考えます。全高校が意味が無いと判断できますか？（掛川）

- \* 面接点の配点というか基準について、何をどれくらい言えれば(表現できれば)どのくらい得点できるのか、明確な基準があるのであればご教示いただけましたら幸甚です。各高校によって点数の付け方に差があることは存じておりますし、100%統一することは難しいと思いますが、あの高校は面接点で差がつかない、この高校は面接点で差がつく…となってしまうと、学力や意欲とは無関係のところ(その情報を知っているか否かで)有利不利が決まってしまうのではないかという懸念があります。また、多くの学生が面接点で100点を取るといったケースについて、そもそも面接試験を行う必要があるのかも疑問です。

**あくまでも公開している各学校の選考基準における評価の観点によって評価している。高校側もしっかりと準備をして面接にのぞんでいる。**

- \* 現在の入試制度は、1次選考枠、2次選考枠のことを考えると、当日の点数をとればどうにかなるような制度になっています。当塾に毎年いるのが、内申があり、偏差値が取れない真面目な女の子は、実力がなため、公立受験を考えづらい傾向にあります。当塾では、私立高校推薦を勧めることが多くあります。以前のような前期入試後期入試と比較して、生徒の質などはどのように変化しているのか伺いたいです。そして、実力のある生徒が評価され、内申しか取れない生徒はあまり評価されない入試制度でいくのか伺いたいです。

**内申しかとれない生徒が評価されない入試制度とは考えていない。また、各学校がどういう生徒をとりたかによって、各検査や調査書の評価の割合をかえられる仕組みになっている。それぞれの生徒の力にあわせた学校選択ができるはずだ。**

補足 内申点と学力検査と面接等の割合が高校サイドで決められる仕組みを理解して高校を選ぶことになるのではないのでしょうか。以前の前期試験のような選抜制度の導入を求めているのであれば、要望すればよいのではないですか。(掛川)

- \* 学力向上進学重点校はじめその他のさまざまな指定校のこれまでの取組み・効果・分析検証が見えてこない。指定している県教委として情報を発信して欲しい。

**教育委員会への指摘として承りたい。今後も情報発信の努力をしたい。**

補足 行政の前例を見ながらということには良い面と多少後ろ向きな面を感じます。情報の発信などは塾も含めた民間のほうが進んでいるのではないのでしょうか？是非と

も、県教委や(市教委)に向けてアイデアを提供して、受験生のための情報を広げることには貢献されたら良いと思います。(掛川)

- \* 成績のつかない生徒の判定方法がいまいちわかりにくいのですが意図的に表に出さないのでしょうか 昨年の社会のように、あまりに平均にばらつきが出た場合などの対応は今後もされないのか 例えば現状、アスペルガー傾向で国語が苦手な生徒はそれだけで40点以上のハンデを持ちます

補足 アスペルガー傾向と判断できるだけのご経験には頭がさがります。(掛川)

**資料の揃わない生徒については全校で一律的な選考をしていない。ただ、その選考の方法等を具体的に出すことは難しい。**

- \* 公立高校の設置数の是正をおこなうと思うが、そのスケジュールはどのようになっているのか。

**これまでのⅠ期、Ⅱ期の発表の時期からすると、Ⅲ期計画が来年の夏から秋には発表になる見込み。Ⅲ期の再編統合についてはそこで発表されることになる。**

- \* 県西部の公立高校画が定員割れが続いている状況について、どの様に魅力を発信するつもりなのでしょう。

補足 意見として、愛川高校の例を出して聞きましたが、特定の学区だけというのは難しいのだと感じました。より良くするための工夫は考えるとの回答だったと思います。(掛川)

**川崎南部など人口が増えている地域の学校の定員を増員するなど全体としての調整を図っている。**

- \* 合格者平均点ではなく全体の平均点を公表しないのはなぜか。

**ひとつは今までそうだったので以前のものとの比較の意味で続いている。もうひとつ、入学者の実態をうつしているのは合格者平均の方だと考えている。**

高校入試について(入試問題など)

- \* 現在の中学3年生は、新しい学習指導要領、新しい学校教科書で学習する最初の学年になるが、学検の出題範囲や内容には配慮はあるのか。とくに、小学6年から教科として学習している英語は、従前の中学3年と大きく異なると思うが、どのように考えているのか。

英語の教科書が難しくなっているのは承知している。そのことで英語の入試問題が難しくなるかは言及できかねる。小学校から英語を学習しているとしても、県としてみるのは中学校での学力。あくまでも中学で学習したことを出題する。

- \* 新学習指導要領の内容はどの程度出す見込みか（塾に通っていない子達は何で勉強すべきか）

教科書が基本。旧学習指導要領で2年間学び、新学習指導要領で1年間学んだことの内容が出題の基本。

- \* 新学習指導要領で追加された単元の2022年入試での扱い（受験生としてはどのくらい心構えをしておけば良いか）。

基本的には中学校で学んだことから出題している。たとえば新学習指導要領の1年生範囲に載っているが現3年生は学習していないような内容は出題しない。

- \* 学力向上進学重点、およびそのエントリー校で実施される自己表現検査について、出題量が制限時間を超えていたと捉えているが、どのように考えているのか。

まったく問題ないとは思っていない。今後もより良くなるようにしたい。

- \* 特色検査で(メインで)測りたいのは情報処理能力か

決して情報処理能力だけをはかりたいと考えているわけではない。ただ、分量が多いと情報処理能力になってしまうというのはわかる。よりよくしていきたい。

- \* 前回入試の社会の難易度は意図的か
- \* 社会がこれだけ簡単になった原因と2022年入試での対応。

課題が多かった。来年は是正をしたい。目指している平均点からすると適切とは言えない平均点だった。6択や8択が数問あったのが1問になってしまった。資料をしっかりとみて読み取って欲しいという問題が易しかった、などというところか。

\* 今も平均 50 点を目指しているのか

毎年のように申し上げているが、50 点から 60 点と目指して、正規分布をさせるような出題をしたいと考えている。

\* 100 点満点初年度やマークシート初年度は簡単な入試になる傾向だが、去年より簡単になることがあり得るのか

補足 来年何か新しいことが導入されるのですか？確かに〇〇初年度に傾向の変化はありますが。（掛川）

入試のなかみについてはお答えできない。

\* 英語 リスニングの割合が増える可能性があるか

入試のなかみについてはお答えできない。

\* 数学で、センター試験のように、数字を当てはめる解答形式にはしないのか

もしもそのような必要があるならば、そうしたことも考えていく。ただ、その場合は事前に中学校を通して受験生に周知徹底する必要がある。

\* 入試における教科間の難易度の差が毎年是正されない件。神奈川総合など科目が選べる入試においてこれは致命的です。教育委員会は是正するよう考えていると言うが、一向に実現されず毎年過ぎていく。事前に問題を何名にも解いてもらい得点予想を作成者と共有して是正せずこのまま実験段階の入試のままなら、不公平さにより悲しい思いをする生徒が毎年出てしまう。

科目間の格差が大きくあってはいけないという課題認識はある。ただ、大学入試共通テストなどで教科「理科」の中の科目「生物」や「化学」で得点差が大きい場合は科目間で調整がされるが、教科間で、たとえば「英語」と「数学」での得点調整はされない。それと同じように県公立高校入試でも各教科の合計点で合否が決まるのだから教科間の調整の必要はないと考える。

\* 学力検査の難易度が全体的に易しくなり平均点が上昇の一途を辿る一方、特色検査は難問が続く。これがこれからのスタンダードとなるのか。

これがスタンダードだとは思っていない。

- \* 思考力を測るはずの特色検査だが、問題のボリュームと制限時間の関係上、得点を稼ぐには思考力の必要のない問題を効率よく解いていく検査になってしまっているが、これは県教委の意図するところから相違はないのか。

もちろんそのようなことを意図していない。

- \* 英語の長文が長すぎて、深く読み込むよりテクニカルな読み方に偏ってしまうのではないか。他県にみられるような作図問題を数学や理科で出題しないのか。入試社会が易化した経緯を知りたい。
- \* 国語 長文問題の選択肢の文章量はこのままか

そもそも定規やコンパスを持ち込み禁止にしている。他の問題でそうした能力をはかりたい。英語の長文、国語の問題文もいたずらに長くしているわけではない。

### 高校入試について(コロナ対応)

- \* 今春の公立高校入試問題が易しかったのはコロナ対応として学校休校などがあっての配慮だったのでしょうか。来春入試では従来の難易度に戻されると考えて良いのでしょうか。
- \* 令和3年度入試では、新型コロナ対応の一つとして学検の出題範囲の一部が除外されたが、それとは別に難度に配慮(易しくする)があったのか。去年は「難度に配慮はないと」伺っていたが、社会の問題の大幅な易化をどうとらえているのか。

コロナ禍の中で学校の休校が長い期間続いた。その対応として出題範囲を狭めるなどの措置をとった。それらの結果としての難易度だったのだと考える。

- \* 新型コロナ対応によって導入された、郵送による出願、追加の検査、Web発表と不合格者への答案写しの郵送などは、新型コロナの終息後には、旧に復するのか。それともこのまま制度の変更となるのか。

良いものは続ける。コロナがさった後でも郵送出願、ネット発表などはそのままでもいいのではないかと考えている。継続した方がよいものがあれば、中学校ともよく相談した上で続けたい。

### その他

- \* 総合学科高校は、（少なくとも選抜方法においては）各校の特色を打ち出せていない状況にあると捉えているが、次期の高校改革の対象となるのか。そうだとすると、現状の課題点と捉えているところはどこか。

総合学科は I 期計画で整理した。中学生の選択肢として残していくことになると考えている。公教育なので、そうした学校に通いたいというニーズが少しでもあれば、そうした受験生たちの進路を狭めるのはどうかと思う。今後も応えていきたいと考えている。

- \* 商業科高校、工業科高校が、慢性的に集まっていないが、神奈川県として今後の募集、定員などについてどのように考えているのか。

これまでも手をつけてきた。これからも手をつけていくつもり。ただ、前述したように公立高校なので一定程度のリスクを持ちながらも学校を維持している。定員割れをしたとしても少しでもニーズがあれば公立高校の使命としては維持すべき。選択肢は確保したい。しかし、ひとつひとつのパイは縮小していく。

- \* H25 年ごろまで実施していた内申の調査はもう実施しないのか

前述したように一定の整理はしたつもりだ。

- \* 特に横浜国際高校で思うこととして、進学重点校にエントリーすることで各高校の“色”が薄れていく懸念はないか。（スペシャリストよりも高レベルなジェネラリストを求める方向に向かっているように思われる）

そうは思わない。横浜国際についてもバカロレアのコースは継続している。

- \* 公立高校の発信力の低さがコロナ禍で浮き彫りになっている。動画を配信したりと一定の工夫はしているが、情報が欲しい中学生・保護者にとってはほとんど参考になっていない。文化祭や体育祭を公開できない以上、学校について知る機会が短時間・単発の学校説明会のみでは、学校選びは偏差値と内申点によるものだけになってしまうが、それでも良いのか。

コロナ禍ではやれることが制限されている中で、できることには取り組んできたつもり。他にどのようなやり方があるか、ぜひ提言して欲しい。コロナ禍の中で集まってもらって説明することが難しい。何千人も集めていた学校説明会が数百人単位でしか開けなかった。回数を増やすにしても実施する上での限界がある。代わりに、例えば、これまで全公立展等に会場の方だけに配付していたガイドブックを、70000部印刷し中学3年生全員に配付した。



- \* 主体的に学ぶ姿勢を強制することにより(現場ではそういった運用されていると感じることもあります)かえって勉強できない、と聞きますがその点について。どうでもいいメモしなければいけなかったり、知ってることをまとめ直して提出、単語を何十回も書いたものを提出して評価、など、評価のために時間を食われる作業が増えています。

一方的な授業の方が受験勉強ははかどるかもしれないが、自分で考えて対話的に進めていく教育に変わっていった。

### フリー討論

- \* 面接についてなど今後は全体に占める割合をフリーにしていくなどが必要なのではないだろうか。

検討する必要はあるだろう。

- \* 広域通信制の学校についてどう考えているのか。

定員割れのファクターのひとつ。定時制も志願者が減っている。

- \* 学区をもういちど復活させる考えはないか。

選択肢を増やすことが受験生へのサービス。通学距離は学校選択の大きな要素になっている。

- \* 退学者の多い学校は、1クラスや2クラスいなくなっている。そうした場合はどのような処置をしているのか。

退学者が多く出てもクラス数を減らすなどということはしていない。各クラスでの生徒数を少なくしている。

- \* 今後、学校休校などがあった場合に問題作成などに問題は出ないのか。

昨年度から1年以上にわたり、コロナ禍の中で中学校も様々な対応をしてきており、学びの保障への対応も一定の知見が備わってきていると考えている。また、去年のように臨時休業が

全県的に一斉に行われる可能性が低いため、全体として極端な学習の遅れは生じないという前提で進めている。

最後に やはり直接の対話がおこなえていた一昨年までとは違いもどかしいやりとりになってしまいました。塾側からの質問も、その意図がはっきりと伝えられなかった部分もあり、県教委からの回答とかみ合わなかったところがあったかとおもいます。また、塾側も、その制度がどのようにしてはじめられたかの経緯をもう少し知る必要もあるかと思えます。いずれにしても、子どもたちがより良い進路選択ができるようにみなが前を向いて努力していること。それを前提にこれからも学習塾と県教委とのこうした情報交換が継続できることを願っています。もう一度、こうした機会を提供していただいた県教委のお三方には心から感謝いたします。

一般社団法人かながわ民間教育協会 第二部会



写真説明 向かって右側一番手前:増田高校教育課長  
二番目 :岡野教育監  
三番目 :岡野専任主幹  
その他は参加者